

嶋屋日記の動物

隈府町の商人が書いた記録「嶋屋日記」。今回はその中から、動物にまつわる話を紹介します。

❶蛙のけんか（3冊目「年々鑑」より）

1779年4月23日に、中町の万屋吉良衛門の田に「蛙数十万」が集まり、集合戦を行ったというにわかには信じがたい話です。「青いろの蛙は十のもの七つ集り、しま蛙は十のもの三つ故、青いろの蛙におふては不勝、方々に散乱す」とあり、しま蛙は青いろの蛙に数で押し負けてしまいました。この騒動はかなりの評判になり、郡代衆まで話を聞きにくる程だったという続報が付け足されています。

❷ラクダ（7冊目「年々鑑」）

1803年に、アメリカ舟主スデハルが日本へ連れてきたラクダは、長さ2間（約3・6畧）、高さ九尺（2・7畧）でした。オランダ砂糖を6俵も背負うことができると、フタコブラクダの絵とともに記録されています。このラクダについての記録は、「甲子夜話」にも「享和3年長崎沖へ渡来の船に乗っていた馬」として記録が残っています。船は交易を断られますが、その後1821年に別の船

で上陸したラクダは全国にその姿を知られることとなりました。

❸アザラシ（7冊目「年々鑑」）

1822年11月17日、二丁川口に現れたあざらしの絵が描かれています。鼻先から尾までが三尺七寸（約109・08㍿）なので、アザラシにしては小さめでしょうか。二丁川口は、現在の熊本市南区の緑川河口辺りのため、有明海から迷い込んできたアザラシだったと考えられます。目が朱で入っているため、怪物のようにも見えますが、「右之魚あざらしといふ評判有り」とあり、当時は「魚」という認識だったことが分かります。

他にも、日記の中には、生味村に生まれ大切に育てられた白牛（4冊目「永代後用実録日記」）や、うさぎに似て大人しい天空のねずみ「モロモルト」（8冊目「見聞録」）なども登場します。当時の町人は、どのような眼差しで動物たちを眺めていたのでしょうか。



フタコブラクダの絵
「嶋屋日記」より

第12回菊池市人権フェスティバル特選作品

【作文の部】

あだ名を通して自分を見つめ直す
隈府小6年 笹本高翔

ぼくは、学校での人権学習を通して、自分の発言や行動を見つめ直しました。

以前、ぼくは、友達にいやなことを言っていました。友達に軽い気持ちであだ名を使っていた。最初は、ぼくの周りに、ある人の名前にもおもしろい言葉をつけて呼んでいる人がいました。ぼくも、それをおもしろいと思って、いつの間にかそのあだ名を使うようになりまし。みんながおもしろがって毎日のように使っているから、「あだ名って便利で、おもしろいな」とまで思っている自分がいました。それまでは、相手の気持ちなんて何も思っていま

でした。しかし、ある日ぼくが本を読んでいた時、今度はぼくをあだ名で呼ぶ人がいました。その時は、何も言わなかったのですが、それからほぼ毎日のように、ぼくはあだ名で呼ばれるようになりました。最初は、ぼくをあだ名で周りが笑って盛り上がるので、「あだ名

で呼んでもらえてうれしいな」と思っていました。しかし、変な言い方で笑われることに對して、だんだんと気持ちがいやになってきました。その時、ぼくは初めて、あだ名で呼ぶ人は、何も相手のことを考えていないということに気づきました。

それからぼくは、自分をあだ名で呼ぶ人に、「名前前で呼んで」というようになりました。しかし、ぼくも簡単に周りに流されることが多く、ぼくよりも口調の強い人がいると、それに従わないといけないと思ってしまうことがよくあります。思っている事やしたい事ができない時もあります。困っている人がいても、「大丈夫？」と言いたいのに、助けたら逆に自分がいじめられるのではないかと感じてしまいます。



【ポスターの部】
七城小5年 中川夏帆

今もまだ、ぼくをあだ名で呼ぶ人がいます。しかし、自分も別の人をあだ名で呼んでいたの、呼ばれていた人の気持ちが今ならわかります。このままだと自分のことだけでなく、学級や学校全体にいじめが広まっていくことにもなります。たとえ年上の人があだ名を使っている、でも、「だめな事はだめ」という気持ちをもちたいし、そのためにも、ぼくと一緒に立ち上がってくれるような友達を大切にしていこうと思います。

残りの小学校生活は長くはないけれど、友達を大切にするために、だれかにばかにされたり、傷ついていた人になる人がいたら、寄りそって支えたいと思います。相手の気持ちを理解し、そして、いじめをなくせる人になりたいです。

わいふ一番館だより

問い合わせ先 わいふ一番館 ☎0968(24)6630

【まちかど資料館】

西郷どんと菊池一族 ～そのルーツを辿る～

期 間：4月3日(火)～7月31日(火)

料 金：大人200円、小中学生100円

西郷隆盛は、先祖が菊池一族といわれています。奄美大島に流された時代、菊池源吾の家名を使い、そこで生まれた子どもに菊の字をつけました。企画展では菊池一族への思いの深さを明らかにしていきます。



西郷隆盛の妻・愛加奈(左)と息子・菊次郎



開館時間 午前9時～午後5時

※休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)。

【ギャラリー】

「絵手紙展～私たちの1年間の取り組み～」夢美会村川尚子

期 間：4月3日(火)～22日(日)

「上手く描くより心を届ける」ことに重きを置いて交流してきました。1年間の活動の集大成をご覧ください。

Bob写真展「生命」

期 間：4月24日(火)～5月6日(日)

モノクロ6つ切りでいろんな「命」をテーマにした「絵」を撮っています。ぜひご覧ください。

菊池夢美術館情報

問い合わせ先 菊池夢美術館 ☎0968(23)1155

菊池夢美術館は、4月1日(日)～平成31年3月31日(日)まで、市民広場の再整備工事に伴い休館します。今後の予定については、決まり次第広報紙でお知らせします。

ご理解とご協力をお願いします。

隣接するきくち観光物産館は営業しています。

ふるさと緑の便り
菊池グリーンツーリズム

問い合わせ先
きくちふるさと水源交流館
☎0968(27)0102

◆廃校が「楽校」に

平成12年に廃校となった菊池東中学校は、地域住民の努力によって平成16年に「きくちふるさと水源交流館」へ生まれ変わりました。現在は、市のグリーンツーリズム拠点施設として運営されています。

今では珍しくなった木造の校舎。かつての教室は研修室や和室に、剣道場は宿泊施設へと生まれ変わっています。音楽室だった場所はレストランへ姿を変え、旬の地元食材をふんだんに使った料理を提供しています。

また、里山ならではの体験プログラムも充実。米づくりを行う農業体験や団子などの郷土料理づくり体験、竹細工など自然と関わる体験も楽しめます。中でも夏季限定の体験、農業用水路をカヤックで下る「イデベンチャー」が人気です。

子どもたちの思い出が詰まったかつての学び舎。一度は廃校となったものの、初めて訪れた人들도こか懐かしさを感じる「楽校」へと生まれ変わり、今でも子どもたちの元気な声が響いています。

「はいー」ちら菊池市消費生活センターですー」⑮

問い合わせ先 菊池市消費生活センター ☎0968(36)9450
(月)～(金)午前10時～正午、午後1時～午後4時 福祉課

訪問買取に注意しましょう

自宅で物品を買い取ってもらう訪問買取（購入）では、業者は突然訪問して勧誘することはできないことになっています。しかし、近年次のような被害の相談が増えています。

▼女性が電話（訪問）してきて不用品を買い取ると言うので古着や不要なものを出した。すると突然別の男性が現れて、時計や指輪などもあるだろうと強い口調で言われ、怖くなって出すと安い値段で買い取られてしまった。

▼布団をはいでマットレスを敷かれ、有無を言わずに契約させられてしまった。

不審電話にご用心

高齢者宅に消防署員を名乗る男から、地震や災害対策のためといて家族構成などの個人情報を探聞き出すとする不審電話がかかってきています。家族構成を聞き、一人暮らしかどうかを聞き出す手口と考えられます。

悪質業者にわたった個人情報悪用される危険性がありますので、電話口などで安易に受け答えしないようにしましょう。不審に思った場合は、消防署に確認するか、警察または消費生活センターにご相談ください。

相談を受け付けています

消費生活センターでは、専門の相談員が常駐しています。相談は無料です。電話相談も受け付けています。詳しくはお問い合わせください。

